



クエリを使用した作業

Data Infrastructure Insights

NetApp
October 01, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/data-infrastructure-insights/concept_querying_assets.html on October 01, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

クエリを使用した作業	1
クエリで使用するアセット	1
在庫資産	1
統合メトリック	2
クエリの作成	2
実際に動作を見てみましょう	3
[集計]、[単位]、[条件付き書式]の順に選択します	3
フィルタリングの詳細	4
クエリ結果が表示されたら、どうすればよいですか？	5
アノテーションルールではクエリが必要です	5
クエリを表示する	5
クエリ結果を .csv ファイルにエクスポートしています	6
非同期エクスポート	6
資産名内のカンマ	6
時刻形式か、それとも時刻形式ではないのか？	6
クエリの変更または削除	7
クエリーの変更	7
クエリーの削除	7
アセットに対する複数のアプリケーションの割り当てと削除	8
テーブル値をコピーしています	9
ログエクスプローラ	9
フィルタリング	10
ログの詳細	11
トラブルシューティング	12
非アクティブなデバイスの識別	12

クエリを使用した作業

クエリで使用するアセット

クエリを使用すると、ユーザが選択した条件（アノテーションなど）に基づいてテナントのアセットと指標をきめ細かく検索することで、ネットワークの監視とトラブルシューティングを行うことができます。

アセットにアノテーションを自動的に割り当てるアノテーションルール `_require_a` クエリに注意してください。

テナントの物理インベントリアセットまたは仮想インベントリアセット（および関連する指標）、またはKubernetesやONTAPの高度なデータなどの統合で提供される指標を照会できます。

在庫資産

クエリ、ダッシュボードウィジェット、およびカスタムのアセットランディングページで利用できるアセットタイプは次のとおりです。フィルタ、式、表示に利用できるフィールドとカウンタは、アセットのタイプによって異なります。すべてのアセットをすべてのウィジェットタイプで利用できるわけではありません。

- アプリケーション
- データストア
- ディスク
- ファブリック
- 汎用デバイス
- ホスト
- 内部ボリューム
- iSCSI セッション
- iSCSI ネットワークポータル
- パス
- ポート
- qtree
- クォータ
- 共有
- ストレージ
- ストレージノード
- ストレージプール
- Storage Virtual Machine (SVM)
- スイッチ
- テープ

- VMDK
- 仮想マシン
- ボリューム
- ゾーン
- ゾーンメンバー

統合メトリック

インベントリ資産とその関連するパフォーマンス指標のクエリに加えて、Kubernetes や Docker で生成された指標や ONTAP Advanced Metrics で提供された指標など、* 統合データ * の指標も照会できます。

[Integration Query Filter の例]

クエリの作成

クエリを使用すると、テナントのアセットをきめ細かく検索して、必要なデータをフィルタリングし、結果を好みに合わせてソートできます。

たとえば、`_VOLUMES_` のクエリを作成し、選択したボリュームに関連付けられている特定の `_クエリ_` を検索するフィルタを追加し、選択したボリュームで「Tier 1」などの特定の `_annotation_associated` を検索するフィルタをもう 1 つ追加できます。最後に、`_iops-Read (IO/s) _greater` が 25 を超えるすべてのストレージを検索するフィルタを追加します。結果が表示されたら、クエリに関連付けられている各列で情報を昇順または降順にソートすることができます。

注：アセットを取得する新しいデータコレクタが追加された場合、またはアノテーションやアプリケーションの割り当てが行われた場合は、クエリにインデックスが付けられたあとに初めて、それらの新しいアセット、アノテーション、またはアプリケーションを照会できます。インデックス作成は、定期的にスケジュールされた間隔で、またはアノテーションルールの実行などの特定のイベント中に実行されます。

クエリの作成は非常に簡単です。

1. [クエリ]、[* + 新しいクエリ *] の順に移動します。
2. [選択 ...] リストから、照会するオブジェクトタイプを選択する。リストをスクロールしたり、入力を開始して検索対象をすばやく見つけることができます。

スクロールリスト：

[クエリードロップダウン]

検索タイプ：

[検索する文字列を入力します]

フィルタを追加して、[* フィルタ条件 *] フィールドの [+] ボタンをクリックすると、クエリをさらに絞り込むことができます。行をオブジェクトまたは属性でグループ化します。統合データ（Kubernetes、ONTAP Advanced Metrics など）を使用する場合は、必要に応じて複数の属性でグループ化できます。

[クエリのフィルタリングとグループ化]

クエリ結果リストには、検索対象のオブジェクトタイプに応じていくつかのデフォルト列が表示されます。列を追加、削除、または変更するには、テーブルの右側にある歯車アイコンをクリックします。使用可能な列

は、アセット / 指標タイプによって異なります。

[列を選択します]

実際に動作を見てみましょう

["Data Infrastructure Insights のクエリを使用して探索および分析する \(ビデオ\)"](#)

[集計]、[単位]、[条件付き書式]の順に選択します

集計と単位

「値」列では、表示される値の集計方法を選択したり、それらの値を表示する単位を選択したりすることで、クエリ結果をさらに絞り込むことができます。これらのオプションは、列の上部にある「3つのドット」メニューを選択すると表示されます。

[「クエリ」ページの結果には、集計、条件付き書式、単位表示、列名の変更が表示されます]

単位

値を表示する単位を選択できます。たとえば、[Selected]列にraw容量が表示され、値の単位がGiBで表示されている場合は、[Unit Display]ドロップダウンから[TiB]を選択します。

集約

同様に、表示されている値が基になるデータから「Average」として集約されている場合、ただし、すべての値の合計を表示する場合は、_Group by_drop（グループ化された値に合計を表示する場合）または_Time Aggregate by_drop（行の値に基礎となるデータの合計を表示する場合）から[Sum]を選択します。

グループ化されたデータポイントを_Avg、Max、Min、またはSum_で集計することができます。

個々の行データは、_Average、Last data point Acquired、Maximum、Minimum、またはSum_で集計できます。

条件付き書式

条件付き書式を使用すると、クエリ結果リストで警告レベルと重要レベルのしきい値を強調表示し、外れ値や例外的なデータポイントを即座に可視化できます。

[クエリページの条件付き書式]

条件付き書式は、列ごとに個別に設定されます。たとえば、容量列ではしきい値のセットを選択し、スループット列ではしきい値のセットを選択できます。

列名を変更します

列の名前を変更すると、[クエリ結果]リストに表示される名前が変更されます。クエリリストを.csvにエクスポートすると、新しい列名も結果のファイルに表示されます。

保存

目的の結果が表示されるようにクエリを設定したら、* 保存 * ボタンをクリックして、クエリを保存して後で

使用することができます。わかりやすい一意の名前を指定してください。

フィルタリングの詳細

ワイルドカードと式

クエリやダッシュボードウィジェットでテキストやリストの値をフィルタする場合、入力を開始すると、現在のテキストに基づいて * ワイルドカードフィルタ * を作成するオプションが表示されます。このオプションを選択すると、ワイルドカード式に一致するすべての結果が返されます。NOTまたはORを使用して*式*を作成することもできます。また、「なし」オプションを選択してフィールド内のnull値をフィルタリングすることもできます。

[ワイルドカードフィルタ]

ワイルドカードまたは式に基づくフィルタ（例 フィルタフィールドに濃い青で表示されます。リストから直接選択した項目は、水色で表示されます。

[ワイルドカードフィルタの結果]

ワイルドカードおよび式フィルタリングは、テキストまたはリストでは機能しますが、数値、日付、またはブール値では機能しません。

フィルタの調整

次の方法でフィルタを絞り込むことができます。

フィルタ	機能	例	結果
*（アスタリスク）	すべての項目を検索できます	ボリューム * RHEL	「vol」で始まるリソースをすべて返し、「rhel」で終わるリソースをすべて返します。
?（疑問符）	では、特定の数の文字を検索できます	BOS-PRD ?? -S12	BOS-PRD 12 -S12、 BOS-PRD 23 -S12などを返します
または	複数のエンティティを指定できます	FAS2240 または CX600 または FAS3270	FAS2440、CX600、または FAS3270 のいずれかを返します
ありません	検索結果からテキストを除外できます	EMC *ではありません	「EMC」で始まるものをすべて返します。
_ なし _	すべてのフィールドで NULL 値を検索します	_ なし _	ターゲットフィールドが空の場合に結果を返します
NOT *	_text-only_fields 内の NULL 値を検索します	NOT *	ターゲットフィールドが空の場合に結果を返します

フィルタ文字列を二重引用符で囲むと、Insight では、最初と最後の引用符の間のすべての部分が完全に一致するものとして扱われます。引用符内の特殊文字または演算子は、リテラルとして扱われます。たとえば、「*」を指定した場合、リテラルアスタリスクである結果は返されますが、アスタリスクはワイルドカードとし

て扱われません。演算子 OR および NOT は、二重引用符で囲まれた場合にもリテラル文字列として扱われます。

ブール値のフィルタリング

ブール値をフィルタリングする場合、フィルタリングする次の選択肢が表示されることがあります。

- 任意: 「はい」、「いいえ」に設定された結果、またはまったく設定されていない結果を含む、すべての結果が返されます。
- はい: 「はい」の結果のみを返します。DII では、ほとんどの表で「はい」にチェックマークが表示されることに注意してください。値は「True」、「On」などに設定できます。DII はこれらすべてを「Yes」として扱います。
- いいえ: 「いいえ」の結果のみを返します。DII では、ほとんどの表で「いいえ」が「X」として表示されることに注意してください。値は「False」、「Off」などに設定できますが、DII はこれらすべてを「No」として扱います。
- なし: 値がまったく設定されていない結果のみを返します。「Null」値とも呼ばれます。

クエリ結果が表示されたら、どうすればよいですか？

クエリを使用すると、アノテーションの追加やアセットへのアプリケーションの割り当てを簡単に行うことができます。インベントリアセットに割り当てることができるのは、アプリケーションやアノテーションだけです（ディスク、ストレージなど）。統合指標には、アノテーションやアプリケーションの割り当ては適用されません。

照会結果のアセットに注釈またはアプリケーションを割り当てるには、結果テーブルの左側にあるチェックボックス列を使用してアセットを選択し、右側の ***一括アクション*** ボタンをクリックします。選択したアセットに適用するアクションを選択します。

[一括アクションの照会の例]

アノテーションルールではクエリが必要です

を設定する場合**アノテーションルール**は、各ルールで使用するクエリが必要です。しかし、前述のように、クエリは必要に応じて広範囲に、または限定されています。

クエリを表示する

アセットの監視に使用するクエリを表示して、アセットに関するデータの表示方法を変更できます。

手順

1. Data Infrastructure Insightsテナントにログインします。
2. **[* クエリ *]** をクリックし、**[* すべてのクエリを表示 *]** を選択します。クエリの表示方法は次のいずれかの方法で変更できます。
3. フィルタボックスにテキストを入力すると、検索して特定のクエリを表示できます。
4. 列見出しで矢印をクリックすると、クエリの表内の列のソート順序を昇順（上矢印）または降順（下矢印）に変更できます。

5. 列のサイズを変更するには、列見出しの上にカーソルを合わせ、青いバーが表示されるまで動かします。
バーの上にマウスを置き、左右にドラッグします。
6. 列を移動するには、列ヘッダーをクリックし、左右にドラッグします。

クエリ結果をスクロールするときは、Data Infrastructure Insightsが自動的にデータコレクタにポーリングを行うため、結果が変わる可能性があることに注意してください。これにより、一部の項目が表示されなくなったり、ソート方法によっては一部の項目が順序どおりに表示されない場合があります。

クエリ結果を .csv ファイルにエクスポートしています

クエリの結果を .csv ファイルにエクスポートして、データを分析したり、別のアプリケーションにインポートしたりできます。

手順

1. Data Infrastructure Insightsにログインします。
2. [* クエリ *] をクリックし、[* すべてのクエリを表示 *] を選択します。

[クエリ] ページが表示されます。
3. クエリをクリックします。
4. をクリックし["[エクスポート] ボタン"] で、クエリ結果を.csvファイルにエクスポートします。



.csvへのエクスポートは、ダッシュボードテーブルウィジェットの「3つのドット」メニューや、ほとんどのランディングページのテーブルでも実行できます。

非同期エクスポート

csvへのデータのエクスポートには、エクスポートするデータの量に応じて、数秒から数時間かかる場合があります。**Data Infrastructure Insights** はデータを非同期的にエクスポートするため、**.CSV** がコンパイルされている間も作業を続行できます。

右上のツールバーの「ベル」アイコンを選択して、.CSV エクスポートを表示およびダウンロードします。

[ダウンロード可能な .csv エクスポートのリストが表示されたベルアイコン、幅 = 400]

エクスポートされたデータには、現在表示されているフィルタ、列、および列名が反映されます。

資産名内のカンマ

メモ：アセット名にカンマが含まれている場合は、アセット名を引用符で囲んでエクスポートすることで、アセット名を維持しつつ適切な .csv 形式が保たれるようになりました。

時刻形式か、それとも時刻形式ではないのか？

エクスポートした .csv ファイルを Excel で開くときに、オブジェクト名またはその他のフィールドが NN:NN の形式である場合 (2 桁の数字の後にコロン、2 桁の数字が続く)、Excel ではその名前がテキスト形式ではなく Time 形式であると解釈されることがあります。その結果、Excel の列に誤った値が表示されることがあります。たとえば、「81 : 45」という名前のオブジェクトは、Excel では「81 : 45 : 00」と表示されます。

これを回避するには、次の手順に従って .csv を Excel にインポートします。

1. Excel で新しいシートを開きます。
2. [データ] タブで、[テキストから] を選択します。
3. 目的の .csv ファイルを見つけて、[インポート] をクリックします。
4. インポートウィザードで、[区切り記号] を選択し、[次へ] をクリックします。
5. 区切り文字に「カンマ」を選択し、「次へ」をクリックします。
6. 必要な列を選択し、列データ形式として「テキスト」を選択します。
7. 完了をクリックします。

オブジェクトが Excel で適切な形式で表示されることを確認します。

クエリの変更または削除

クエリに関連付けられている条件を変更して、アセットの検索条件を変更することができます。

クエリーの変更

手順

1. をクリックし、[すべてのメトリッククエリ]*を選択します。

[クエリ] ページが表示されます。

2. クエリ名をクリックします
3. クエリに条件を追加するには、[Columns]アイコンをクリックし、リストから指標または属性を選択します。

必要な変更をすべて行ったら、次のいずれかを実行します。

- 最初に使用した名前でクエリを保存するには、「* 保存 *」ボタンをクリックします。
- [保存 *] ボタンの横にあるドロップダウンをクリックし、[名前を付けて保存 *] を選択してクエリを別の名前で保存します。元のクエリは上書きされません。
- 「* 保存 *」ボタンの横にあるドロップダウンをクリックし、「* 名前の変更 *」を選択して、最初に使用したクエリ名を変更します。これにより、元のクエリが上書きされます。
- [保存 *] ボタンの横にあるドロップダウンをクリックし、[変更を破棄 *] を選択して、クエリーを最後に保存した変更に戻します。

クエリーの削除

クエリを削除するには、「* クエリ *」をクリックし、「* すべてのクエリを表示 *」を選択して、次のいずれかの操作を行います。

1. クエリの右側にある 3 つのドットメニューをクリックし、* 削除 * をクリックします。

2. クエリ名をクリックし、* 保存 * ドロップダウンメニューから * 削除 * を選択します。

アセットに対する複数のアプリケーションの割り当てと削除

アセットに対して複数のアプリケーションを割り当てたりアセットから削除したりするには、クエリを使用します。手動でアプリケーションを割り当て["アプリケーション"](#)たり削除したりする必要はありません。



これらの手順を使用して、同じ方法で追加または削除できます["アノテーション"](#)。

開始する前に

編集するすべてのアセットを検索するクエリを作成しておく必要があります。

手順

1. をクリックし、[メトリッククエリ]*を選択します。

[クエリ] ページが表示されます。

2. アセットを検索するクエリの名前をクリックします。

クエリに関連付けられているアセットのリストが表示されます。

3. リストで目的のアセットを選択するか、一番上のチェックボックスをクリックして「すべて」を選択します。

[Bulk Actions]ドロップダウンが表示されます。

4. 選択したアセットにアプリケーションを追加するには、[Bulk Actions]をクリックし、*[Add Application]*を選択します。

5. 1 つ以上のアプリケーションを選択します。

ホスト、内部ボリューム、qtree、および仮想マシンについては複数のアプリケーションを選択できますが、ボリュームまたは共有に選択できるアプリケーションは 1 つだけです。

6. [保存 (Save)] をクリックします。

7. アセットに割り当てられているアプリケーションを削除するには、[Bulk Actions]をクリックして*[Remove Application]*を選択します。

8. 削除する 1 つ以上のアプリケーションを選択します。

9. [削除 (Delete)] をクリックします。

新しく割り当てたアプリケーションは、別のアセットから派生したアプリケーションよりも優先されます。たとえば、ホストから継承したアプリケーションがあるボリュームに新しいアプリケーションを割り当てた場合、派生したアプリケーションよりも新しいアプリケーションが優先されます。

一括追加の場合は_Save_(保存)、一括削除の場合は_Remove_(削除)をクリックすると、処理に時間がかかることがData Infrastructure Insightsから通知されます。このメッセージは無視してもかまいません。操作はバックグラウンドで続行されます。



関連するアセットが大量にある環境では、それらのアセットへのアプリケーションの割り当ての継承に数分かかることがあります。関連するアセットが多数ある場合は、継承の時間を長くしてください。

テーブル値をコピーしています

テーブルの値をクリップボードにコピーして、検索ボックスやその他のアプリケーションで使用することができます。

タスクの内容

テーブルまたはクエリ結果からクリップボードに値をコピーする方法は2つあります。

手順

1. 方法1: マウスで目的のテキストを強調表示し、コピーして、検索フィールドやその他のアプリケーションに貼り付けます。
2. 方法2: 単一値フィールドの場合は、フィールドの上にカーソルを置き、表示されるクリップボードアイコンをクリックします。値は、検索フィールドやその他のアプリケーションで使用するためにクリップボードにコピーされます。

このメソッドを使用してコピーできるのは、アセットへのリンクである値のみです。コピーアイコンは、単一の値（リスト以外）を含むフィールドのみに表示されます。

ログエクスプローラ

Data Infrastructure Insightsのログエクスプローラは、システムログを照会するための強力なツールです。検査に役立つだけでなく、ログクエリーをモニタに保存して、特定のログトリガーがアクティブになったときにアラートを生成することもできます。

ログの検索を開始するには、*[Log Queries]>[+New Log Query]*をクリックします。

リストから使用可能なログを選択します。

[ログを選択します]



クエリに使用できるログの種類は環境によって異なります。ログタイプは、時間が経過すると追加される場合があります。

フィルタを設定して、クエリの結果をさらに絞り込むことができます。たとえば、障害を示すすべてのログ・メッセージを検索するには、「failed」という単語を含む *Messages* のフィルタを設定します。



フィルタフィールドには、必要なテキストの入力を開始できます。Data Infrastructure Insightsでは、入力時に文字列を含むワイルドカード検索を作成するよう求められます。

結果は、表示される各期間のログインスタンスの数を示すグラフに表示されます。グラフの下には、自分のログエントリが表示されます。グラフとエントリは、選択した期間に基づいて自動的に更新されます。

[フィルタを示すクエリの例]

フィルタリング

含める/除外する

ログをフィルタリングするときは、入力した文字列を*含める*（「フィルタする」など）または*除外*にすることができます。除外された文字列は、完了したフィルタに「Not <string>」と表示されます。

[除外オプションを表示するログフィルタ]

ワイルドカードまたは式に基づくフィルタ（例 フィルタフィールドに濃い青で表示されます。リストから直接選択した項目は、水色で表示されます。



[ログモニタの作成] をクリックすると、現在のフィルタに基づいて新しいモニタを作成できます。

高度なフィルタリング

クエリやダッシュボードウィジェットでテキストやリストの値をフィルタする場合、入力を開始すると、現在のテキストに基づいて * ワイルドカードフィルタ * を作成するオプションが表示されます。このオプションを選択すると、ワイルドカード式に一致するすべての結果が返されます。NOT、AND、ORを使用して式を作成することもできます。また、[None]オプションを選択してnull値をフィルタリングすることもできます。



フィルタリングを構築するときは、クエリを早期に頻繁に保存するようにしてください。高度なクエリは「自由形式」の文字列エントリであり、ビルド中に解析ミスが発生する可能性があります。

この画面の画像を見てください。この画像は、_logs.kubernetes.event_logの高度なクエリのフィルタリングされた結果を示しています。このページでは多くのことが行われています。これについては、画像の下で説明します。

["Advanced Query"]画面の説明

- この高度なクエリー文字列フィルタは、次の項目に対して適用されます。
 - 「failed」という単語を含む_reason_のログエントリをフィルタリングしますが、特定の理由が「FailedMount」のログエントリはフィルタリングしません。
 - 「monitoring」という単語を含む_metadata.namespace_を含むエントリのいずれかを含めますが、「cm-monitoring」または「eg-monitoring」の特定の名前空間は除外します。

上記の場合、「cm-monitoring」と「eg-monitoring」の両方にダッシュが含まれているため、文字列を二重引用符で囲む必要があります。そうしないと、解析エラーが表示されます。ダッシュ、スペースなどを含まない文字列は、引用符で囲む必要はありません。疑わしい場合は、文字列を引用符で囲みます。
- 現在のフィルタの結果（[Filter By]の値や[Advanced Query]のフィルタなど）が結果リストに表示されます。リストは、表示されている任意の列でソートできます。追加の列を表示するには、「歯車」アイコンを選択します。
- グラフが拡大され、特定の期間内に発生したログ結果のみが表示されるようになりました。ここに表示されている時間範囲は、現在のズームレベルを反映しています。[Reset Zoom]ボタンを選択して、ズームレベルを現在のData Infrastructure Insightsの時間範囲に戻します。
- グラフの結果は、_source_fieldでグループ化されています。グラフには、各列の結果が色別にグループ化

されて表示されます。グラフの列にカーソルを合わせると、特定のエントリに関する詳細が表示されます。

[グループ化されたマウスオーバーの詳細]

フィルタの調整

次の方法でフィルタを絞り込むことができます。

フィルタ	機能
* (アスタリスク)	すべての項目を検索できます
? (疑問符)	では、特定の数の文字を検索できます
または	複数のエンティティを指定できます
ありません	検索結果からテキストを除外できます
_ なし _	すべてのフィールドで NULL 値を検索します
NOT *	_text-only_fields 内の NULL 値を検索します

フィルタ文字列を二重引用符で囲むと、Insight では、最初と最後の引用符の間のすべての部分が完全に一致するものとして扱われます。引用符内の特殊文字または演算子は、リテラルとして扱われます。たとえば、「*」を指定した場合、リテラルアスタリスクである結果は返されますが、アスタリスクはワイルドカードとして扱われません。演算子 OR および NOT は、二重引用符で囲まれた場合にもリテラル文字列として扱われます。

単純なフィルタと高度なクエリフィルタを組み合わせることができます。結果のフィルタは、2つのうちの「AND」になります。

グラフの凡例

グラフの下の方例にもいくつかの驚きがあります。凡例に表示される結果ごとに（現在のフィルタに基づいて）、その行の結果のみを表示するオプション（フィルタの追加）、またはその行以外の結果を表示するオプション（除外フィルタの追加）があります。グラフと[ログエントリ]リストが更新され、選択した結果が表示されます。このフィルタリングを削除するには、凡例をもう一度開き、[X]を選択して凡例ベースのフィルタをクリアします。

[最初の結果に[Add Filter]が表示されているAdvanced Queryの凡例]

ログの詳細

リスト内のログエントリの任意の場所をクリックすると、そのエントリの詳細ペインが開きます。ここでは、イベントに関する詳細を確認できます。

[フィルタの追加] をクリックして、選択したフィールドを現在のフィルタに追加します。ログエントリリストは、新しいフィルタに基づいて更新されます。

一部のフィールドはフィルタとして追加できません。その場合、_Add Filter_ アイコンは使用できません。

[ログエントリの詳細ペイン]

トラブルシューティング

ここでは、ログクエリに関する問題のトラブルシューティング方法を説明します。

* 問題 : *	* これを試みなさい : *
ログクエリに「デバッグ」メッセージが表示されません	デバッグログのメッセージが収集されません。必要なメッセージをキャプチャするには、関連するメッセージの重大度を <code>_INFORMATIONAL</code> 、 <code>ERROR</code> 、 <code>ALERT</code> 、 <code>EMERGENCY</code> 、 <code>_OR_NOTICE</code> レベルに変更します。

非アクティブなデバイスの識別

所有している資産とその使用者を特定することは、「適切なサイジング」を行い、使用していないインフラストラクチャを解放するために重要です。使用率の低いリソースを簡単に再割り当てしたり、運用を停止したりでき、不要な購入を回避できます

次の手順に従って、アクセス頻度の低いアセットを特定します。

手順

- [Observability]>[Explore]→[+New Metric Query]*に移動します。
- ドロップダウンから[Storage]を選択します。
- ギアをクリックし、`_isActive_` を列として追加します。

チェックを表示している行がアクティブです。「X」は非アクティブなデバイスを示します。

非アクティブなデバイスを削除するには、削除するデバイスを選択し、* Bulk Actions *ドロップダウンで `_Delete Inactive Devices_` を選択します。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。